



しもや ひのちゃん
(6さい)

たこはちで はたらきたいの。しってる ひとが たくさん いるよ。おじいちゃんや おばあちゃんのおてつだいを してあげたいな。



おひさま保育園のおともだち



しまだ ゆういちろうくん
(5さい)

ゴーカイジャーに なりたいんだ。とくに ゴーカイシルバーが すきだよ。へんしんして わるものを やっつけてあげるからね。

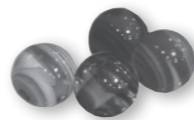
がんばっているあなたがすき

シリーズ・ひと

出会うお客さま一人一人を大切に

とんぼ玉アーティスト

一ノ戸 さおりさん(39歳・屈斜路)



とんぼ玉制作体験は、屈斜路プリンスホテル地下1階「自然工房」で行うことができます。(11:00~20:00) 冬季は「四季の風」(和琴半島入り口近く)で体験できることもあります。

さまざまな色のガラス棒を800℃の熱で溶かし、ステンレスの芯棒に巻きつけて作る とんぼ玉。とんぼ玉を作る工芸家として活躍する一方、多くの方にその魅力に触れてほしいと とんぼ玉の制作体験を行っているのが一ノ戸さんです。

「元々ガラスが大好きで、眺めているだけで自然と笑顔になるほどでした。縁あってガラス製品を扱う仕事に携わるようになり、とんぼ玉にも出会いました。そのうちに、商品としての とんぼ玉よりも、とんぼ玉を作ることに興味が出てきて、最初は自分で作るのは無理だろうと思っていたのですが、体験してみたらとても楽しくて、この楽しさをたくさんの方に知ってほしい、弟子屈でも体験工房をやってみたいと思うようになりました。

その思いを実現させるのは大変だったのでは。

「本社である小樽大正硝子館で練習を重ね、自宅でも小樽での練習を忘れずにひたすら頑張りました。一日中とんぼ玉のことばかり考えていて、お風呂の中でも芯棒を回す練習をしていたほどです。色によって溶ける速さの違うガラスに苦心しながら、朝から晩までかかって、とんぼ玉を何個も何個も作り続け…。自分で作品が作れるようになると、今度は人に伝え

ることについても考えるようになりまし。自分で作ることに、人に教えることは全く違います。たくさんの方に体験していただきたかったので、いかに分かりやすく、楽しく、安全に体験していただけるか、体験する方の年齢に合わせた言葉を毎日考えていました。あんなに頑張ったことはありません。またその頑張り、家族や周囲の方に支えられたものでもありません。そして、チャンスを与えてくれた社長や先輩たちに感謝をしています。経験や、今まで作ってきたとんぼ玉たちは宝物です。本当に感謝しています。

努力が実り、とんぼ玉体験工房を始められました。

「弟子屈は美しい自然に囲まれ、子どもものびのび育つ、とてもすてきな所。私は大好きです。弟子屈を象徴する屈斜路湖をイメージしたとんぼ玉を作ることを通して、地元の方も観光客の方も癒やされたら、そんな工房ができれば…。という思いで進んできました。夢は、そこに向かおうと決めて努力しています。必すかなうものだと実感しています。これから新たにやりたいことがたくさんあり、まだまだ努力の日々ですが、出会うお客さま一人一人を大切に、心を込めた作品作りと体験を続けていきたいです。



摩周多夢窯サークル
代表・平出 隆子さん
会員・18人



摩周多夢窯サークルの皆さん
(春に行われた交流会で)



作陶に励む皆さん

一般の方からの陶芸体験の申し込みがあると、会員さんも指導者として活躍するほどの腕前。作品は毎年、町の総合文化祭に出展しているほか、今年から道の駅摩周温泉で販売されているそうです。一度ご覧になってみませんか。

今回ご紹介するのは、摩周多夢窯サークルという、陶芸のサークルです。

代表の平出さんは、摩周多夢窯の窯元。2003年に川湯で開窯しましたが、その当初から会員が集まるようになり、

サークルができたそうです。

多くは主婦の方ですが、関東や関西など道外から移住、あるいは季節移住をしている男性もいらっしやるとか。皆さん、和気あいあいと活動を楽しんでいるらっしやるそうです。

「みんなで仲良くしながら、作品の腕を上げてほしい」と話す平出さん。年に数回、忘年会などの交流の場を設け、皆さんの楽しみとなっているそうです。平出さんの願いどおり、会員同士の仲がいいのが特徴で、そのせいか長く続いている方が多いとのこと。創作においても、それぞれ意見を出し合い、協力し合うことが自然と行われているそうです。

陶芸の魅力について会員の皆さんからは「自分の思い描く作品はなかなかできないけれども、偶然が重なって思いがけず素晴らしい作品に巡り合えることもあります」「窯から出すまで分からないというのが、逆に楽しみでもありますね」という声がかげられました。